

2024 4

ナイル

現代短歌ナイル

【今月の歌】

酒本郁也、河内圭子
茂木孝太、須藤滋子

ナイルキャンパス／五代目神田伯梅

住谷眞代表 第二歌集 お祝い会 報告

2月号作品批評／宮本史一(心の花)

ESSAY「朝よ」／本田じゅん

「如月」のうた 松本豊子



NILE CAMPUS

298

伯梅閑話 —— 伯龍・千代・敏子 —— 小村井敏子（五代目神田伯梅）

千代夫人がいかに素敵な方であったかを語ると、やきもちや焼かないのかと聞かれることがある。実のところ、伯龍は浮気する男ではなかったので、千代夫人は伯龍を取り合う相手ではなかった。それ以上に、私の理解者は千代夫人をおいてないと思ってる。私の最大の味方は千代夫人なのだ。しかし、まったく、やきもちや焼かないのは、千代夫人が女でないような気がして嫌だった。東京大森に住んでいた時、駅へ歩く途中、伯龍に「亡くなった方をすぐに忘れるような人は嫌いだ」というようなことを言った。その瞬間、なんだか、ムラムラと変な気持ちがあった。一秒足らずだったと思うが、「わあ、やきもちだあ」と嬉しかった。

千代夫人がなぜ、私の理解者かというところ、同じような経験をしているからだ。夫のためになりたいと思ううちに、夫の心が離れての離婚だ。講談の台本を書き、夫の稽古にダメ出した千代夫人は、夫のゴーストライターでもあった。そのころ、大いに売れた講談本を書いて、家一軒買えるくらい稼いだと八代目貞山師からも聞いた。だからだろう。講談師の一人が「子供が病気で」とお金を借りに来たときに、お金を貸した。それが夫の逆鱗に触れたようだ。「嘘だろう」と言われた。そのあと、お金を自由にできなくなつたようだ。その講談師のちに、お礼として、鯉節を一本届けてくれたという。私の場合、夫の心が離れたことがわかり、私のお金は、ほぼすべて非難された。夫のためにできることがないわかつたので一年足らずで別れた。夫や夫の母にさせるわけにいかず、離婚する気がない私が離婚届を出さなければならなかつた。あんなにつらいことは二度とごめんだ。あとあと、誤解があつたことに気付いた。どうやら、私が浮気していたと思われたらしい。知らぬは本人（敏子）ばかりなり。男性と女性が食事をするとプラスチックがある文化を知らなかつた私の落ち度だつた。（つづく）